

SUN

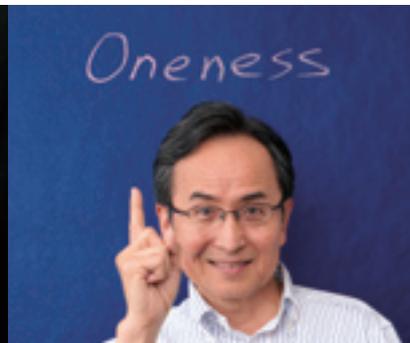
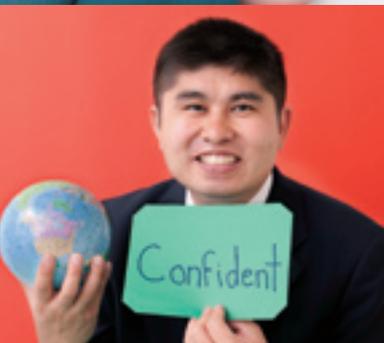
Soka Univ. News



特集

What is a Global Citizen?

創大生・短大生 緊急アンケート!
あなたにとって「Global Citizen (= 地球市民)」とは!?



What is a Global



創大生・短大生 緊急アンケート! あなたにとって「Global Citizen(=地球市民)」とは!?

スーパーグローバル大学としての扉を開いた創価大学。

創大生は、Global Citizenとしての自分をどう捉えているのでしょうか。

創大生・短大生400人に8つの質問! その結果から導き出された答えは?

※創大生・短大生のアンケート結果はwww.soka.ac.jp/about/sunで公開中!

Let's Try!

自分の答えに最も近いものを1つ選んでください。
あてはまらない場合は「その他」に記入してください。

Q1

Global Citizenと言えば、
“外国語が話せて当然!”と思う?

- ① その通り! 言語はたかがツール、されどツール!
- ② 話せばベターだが、言語よりも教養と人格が欠かせないと思う。
- ③ 言語なんて関係ない。ジェスチャーは世界共通語! 要は気持ち!
- ④ 外国語なんて不要! 母国語を大切にこそGlobal Citizen!
- ⑤ その他 ()

Q2

Global Citizenと言えば、
“海外経験者”であると思う?

- ① その通り! 経験に勝るものなし! Go Global!
- ② 海外経験は大事。プラス“グローバル・マインド”で鬼に金棒!
- ③ 海外経験がなくても、海外の友人がいればGlobal Citizen!
- ④ 思わない! 目指すは“グローバル”でしょ!
- ⑤ その他 ()

Q3

海外でルームシェア! ルームメイトと気が
合わないし、性格も違う。あなたは どうする?

- ① 苦手なものは苦手! その人と距離をとる。
- ② 苦手だけど、自分にプラスであることも多いので、避けるつもりはない。
- ③ 自分の成長にとっても大事だと思うので、むしろ感謝する。
- ④ 性格の不一致は辛い。どこまでも自分と同じ感覚を持っている人が好き!
- ⑤ その他 ()

Q4

海外で大地震が起きた。被害は甚大!
あなたは どうする?

- ① 寄付やボランティアなど、自分にできることから行動する!
- ② お金も時間も力もない。そんな自分でもできることが見つければ喜んで!
- ③ 心配だが、実際自分には何もできないと思う。
- ④ 正直、自分には関係がないと思ってしまう。
- ⑤ その他 ()

Q5

昨今、環境について考えさせられる
出来事も多い。あなたは どう考える?

- ① 身近な問題! マイバッグで買い物等、自分にできることをやるのは当然!
- ② 環境問題は重要な問題! でも正直、何をしたらいいのかわからない。
- ③ できることはやろうと思うけど、それで環境破壊を防げるのか疑問。
- ④ 生きるのに困ることはないので、自分には身近な話題と思えない。
- ⑤ その他 ()

Q6

世界には一日1食の食事もできない人たちが
いる。貧困について、あなたは どう考える?

- ① 貧困をなくしたい! 寄付やボランティアなど、できることは何でもする!
- ② 学ぶ! 力がなければ貧困をなくすことなどできない。将来必ず貢献する!
- ③ 自分もギリギリの生活。実際自分には何もできないと思ってしまう。
- ④ 正直、世界の貧困に苦しむ人々のことをリアルに想像できない。
- ⑤ その他 ()

Q7

人権侵害に関するニュースが世界中で
報道されている。あなたは どう思う?

- ① 人々が平等で生命の尊厳が守られる社会を構築したい、そのために学ぶ。
- ② 問題意識はあるが、自分に何ができるかわからない。
- ③ 世の中は不平等なもの。その中でどう生きるのが大事だと思う。
- ④ 正直、考えたことがない。
- ⑤ その他 ()

Q8

創価大学が2014年に文部科学省の
“スーパーグローバル大学創成支援(SGU)”に採択。
これについてあなたは?

- ① 誇りに思うし、“人間教育の世界的拠点”の構築をサポートしたい!
- ② ますます創価大学がグローバル化するらしいという程度の認識しかない。
- ③ 大学が評価されることは嬉しいが、自分に何が関係するのかわからない。
- ④ よく知らないで、興味も湧かない。
- ⑤ その他 ()

Citizen?

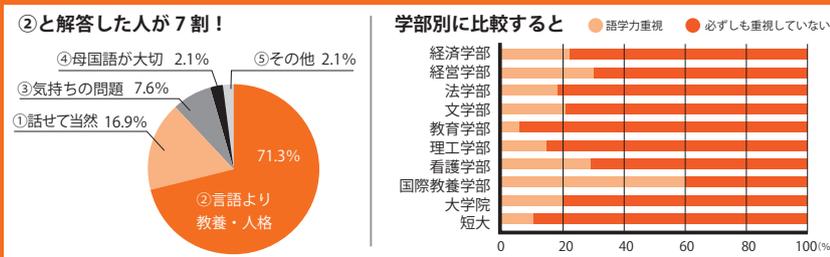
What is a Global Citizen?



創大生の実像が見えた!! Q1~Q3の集計と分析結果を発表!

Q1

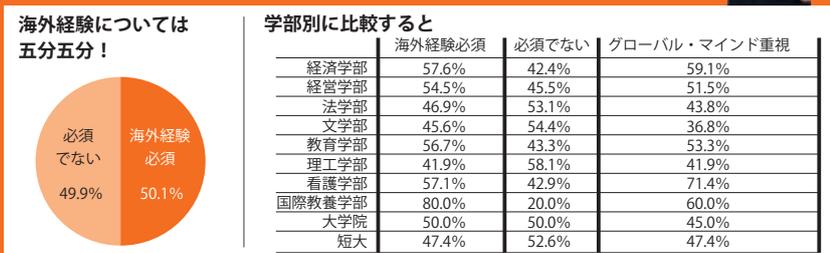
Global Citizenと言えば、
“外国語が話せて当然!”と思う?



本学の学生のGlobal Citizenのイメージに関する回答で大変興味深い点として2つ挙げられます。まず、「何よりも外国語スキル」と考えている学生が少ないという点です(16.9%)。とはいえ、多くの学生は外国語スキルが不要と考えているわけではなく、とりわけ、71.3%の学生は外国語スキルよりも「教養・人格」を重視していると回答しています。

Q2

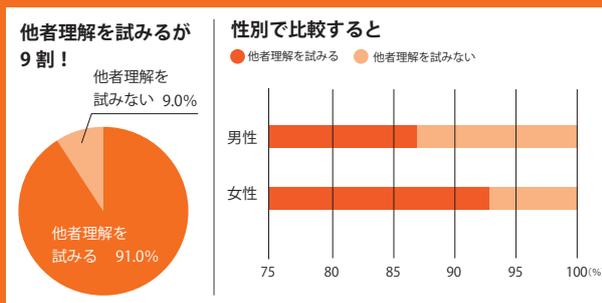
Global Citizenと言えば、
“海外経験者”であると思う?



もう1つは、海外経験を必須と考えている学生とそうでない学生が約半数ずつにわかれている点です。これに関しても、性別の違いや学部による個性が多少出ていますが、さらに興味深い点は、Global Citizenである要件として、海外経験の有無よりも他者を尊重する等の「グローバル・マインド」を持っていることを重視している学生が約半数(47.7%)いたという点です。この特徴は次の3つめの質問によく表れています。

Q3

海外でルームシェア! ルームメイトと
気が合わないし、性格も違う。あなたは どうする?



海外で気が合わなく性格も違う友人とルームシェアした際の対応として、91.0%(女性に限れば93.2%)もの学生が積極的に他者理解に取り組むと回答しているのです。これらの事実は、「人間教育の最高学府」を謳う本学の大切な特質と考えられます。

分析担当: 清水強志准教授

学士課程教育機構所属、
専門は、社会学、社会調査、IR
(Institutional Research)



学長に一問一答!

What is

その第一歩は“地球市民”という意識から

「Global Citizen とは何か、私は本学創立者の池田大作先生が 1996 年にコロンビア大学で行った講演『地球市民』教育への一考察』こそが、本学が考える Global Citizen のあるべき姿だと考えています。

実は私は、その講演の場にいました。アメリカの知性が集う場で堂々と講演をし、終了後は聴衆からの鋭い質問に次々と答える創立者の姿が忘れられません。その時、創大を世界の知性と渡り合える人材を輩出する大学にしたいという思いが芽生えました。

あれから 20 年。キャンパスには多様なルーツや考え方をを持った学生、教職員が行き交い、卒業生は日本や世界で活躍中です。本学は昨年(2014 年)、文部科学省の“スーパーグローバル大学創成支援(SGU)”に採択され、より一層“人間教育の世界的拠点”の構築を目指し、取り組んでいくことになりました。その只中で学ぶ皆さんと、Global Citizen とは何かについて語り合えることを、楽しみにしています!」

創価大学学長 馬場善久

1996年、ニューヨークのコロンビア大学 ティーチャーズ・カレッジでの創立者の講演 『「地球市民」教育への一考察』より

「地球市民」の要件とは、何か。この数十年、世界の多くの方々と対話を重ねつつ、私なりに思索してまいりました。

それは決して、単に何カ国語を話せるとか、何カ国を旅行したということで、決まるものではない。

国外に一回も出たことがなくても、世界の平和と繁栄を願い、貢献している気高き庶民を、私は数多く友人としております。

ゆえに、「地球市民」とは、たとえば――

- 一、生命の相関性を深く認識しゆく「智慧の人」
- 一、人種や民族や文化の“差異”を恐れたり、拒否するのではなく、尊重し、理解し、成長の糧としゆく「勇気の人」
- 一、身近に限らず、遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯しゆく「慈悲の人」――と考えても間違いないと思うのであります。

What then, are the conditions for global citizenship?

Over the past several decades, I have been privileged to meet and converse with many people from all walks of life, and I have given the matter some thought. Certainly, global citizenship is not determined merely by the number of languages one speaks, or the number of countries to which one has traveled.

I have many friends who could be considered quite ordinary citizens, but who possess an inner nobility; who have never traveled beyond their native place, yet who are genuinely concerned for the peace and prosperity of the world.

I think I can state with confidence that the following are essential elements of global citizenship.

- The wisdom to perceive the interconnectedness of all life and living.
- The courage not to fear or deny difference; but to respect and strive to understand people of different cultures, and to grow from encounters with them.
- The compassion to maintain an imaginative empathy that reaches beyond one's immediate surroundings and extends to those suffering in distant places.

a Global Citizen?

Question

公認会計士を目指しています。将来は会計の知識を生かして海外でも活躍したいと考えているものの、もともと英語が苦手です……。周りの友人が世界での活躍を夢見て語学や留学に挑戦している姿に焦りも感じます。学長は、語学の重要性をどのように考えますか？

井田 暁士さん 経営学部3年

Q1

Question

SPACEやWLCのプログラムを活用し、TOEICの点数は2倍になり、留学生の友人を作ることもできました。将来は、途上国支援に携わりたいと考えていますが、創大で学んでいると、世界に出なくても、Global Citizenになれると感じます。海外に出ることには、どのような意味がありますか？

坂本 華澄さん 法学部2年

Q2

Question

NYで生まれ育ち、193カ国からの生徒が集う国連の小学校に通っていたこともあり、様々な人種や考え方が当然という環境で育ちました。ところが日本では、みんなと違うことが大きな壁になるのだと知りました。差異はどうしたら乗り越えられるのでしょうか？

道野 珠璃さん 経済学部2年

Q3

Question

国際学生寮での生活やオーストラリア留学を通じて世界各国に友人がいます。ネパール地震の際は、すぐにカトマンズの友人に連絡を取りました。創大で築いた友情が、自分の視野を大きく広げてくれました。「慈悲の人」とはどんな人でしょうか？

久保田 裕基さん 経済学部4年

Q5

Question

春休みにフィリピンに行き、働かないと生きていけない子供たちがいることを知りました。彼らとの直接の出会いを通し、それまで遠くの国の出来事であったことが、一気に自分のこととして感じられました。創立者の言われる「生命の相関性」とはこういうことなのでしょうか？

片居木 謙太さん 文学部2年

Q4

Answer



A1

「語学は活躍の場を 広げる一つのツール として重要です」

英語ができれば、世界中の人々と広く交流できるようになります。創立者も「英語ができれば10倍働けた」とおっしゃっているほどです。まずは会計士の勉強を優先して、その上でいずれは英語や他の外国語にも挑戦してください。必要性を実感していれば、自ずと挑戦することになるでしょう。

英語をはじめ、語学はやはり必要だと感じました!まずは公認会計士を目指し、合格したら、世界で活躍できるように、語学に必ず挑戦します!



井田 暁士さん 経営学部3年

高校を中退し、高卒認定試験合格後、猛勉強をして創大合格。創立者の「世界に」との言葉を胸に、まずは公認会計士に挑戦中。

Answer

A2

「自分の目で見て肌で感じる経験は 想像以上の影響をもたらします」

実感されている通り、本学には、生きた英語力を身に付けられるプログラムや施設があり、40カ国以上から来た300人もの留学生の多様な考え方や文化にふれる機会があります。その上で、留学して、日本とは違う環境の中で、言葉をはじめ文化や慣習、生活、価値観の多様性に直接ふれることは想像以上の経験です。そうしたことを大学生時代に皆さんに感じたいと、様々な留学プログラムや奨学金を本学では準備しています。

確かに、短期の留学プログラムも多彩で、私も法学部のアメリカ研修に参加しました。その経験がさらに力を付けたいとのモチベーションになりました!



坂本 華澄さん 法学部2年

WLCのChit Chat ClubやEnglish Forumに年100回以上参加し、プラチナメンバーに。その結果、TOEICは1年で2倍の点数になった。

Answer

A3

「差異を尊重する ことは、人生を 豊かにしてくれます」

「多様性は尊重する対象だけでなく、自分の人生を豊かにしてくれる源泉だ」とは創立者の言葉ですが、違いがあるからこそ互いが人間として成長できる。このように考えれば差異はまさしく、「尊重し、理解し、成長の糧としゆく」ものです。勇気を出して相手に近づくこと。そこから始まるのだと思います。



自分がいるその環境を成長の糧としていければ、大きく成長していけるということですね。私がGlobal Citizenとなっていこうと決意しました!

道野 珠璃さん 経済学部2年

GCP生。NYで幼少時代を過ごし、世界のどこかで災害が起こるたび、募金活動などのボランティア活動をしてきた。現在も東北復興支援に携わっている。

Answer

A4

「世界に目と心を向ければ、 学ぶことがたくさんあります」

「生命の相関性」とは、森羅万象全てのことが相互に関係があるという事です。世界で起きている事は、日本や片居木さんにも関係があり、そこから学ぶことがたくさんあります。学んで得た知識や知恵は、海外の人たちと互いに尊重し合って交流する上できっと役立つでしょう。

全てが関係しているということは、世界で起きていることは自分が力を付けた分だけ、変化を起しうるといことですね。本気で力を付けたいと思いました！



片居木 謙太さん 文学部2年

準硬式野球部の4番。フィリピン・イースト大学研修に参加して、世界の出来事が自分と大きく関係があるのだと感じ、意識が変わった。

Answer

A5

「自分以外の誰かのた めに行動できる勇気 と思いやりの人！」

創立者は、「その人のために何が出来るか」と真剣に思いやる「慈悲」の心から、「智慧」は限りなくわいてくると言われています。久保田さんが、友人を思って連絡を取った行動に、慈悲も智慧も、そして勇気も含まれていると思います。世界中に築いた友情を育み、広げ、関わり続ける中で、他者に同苦する「慈悲の人」となっていけるのでしょうか。そういう人材を本学から陸続と輩出していきたいです。



創大で、世界で出会ったかけがえのない友人たちを大切にし、友情を育む自分でありたいと心から思いました！

久保田 裕基さん 経済学部4年

国際学生寮の残寮生として誰よりも留学生と関わり、築いた友情は世界五大陸に広がった。本年5月末、オーストラリア留学から帰国。

We are Global Citizens!

世界中から創大へやってきた留学生たち。様々な価値観、視点を持った彼らが考える Global Citizenとは？

また、日本や日本人、創大生に対してどのような印象を持っているのでしょうか。その本音を語っていただきましょう！



ダリア・ナスルアルディーンさん
Dalia Nasreldin

 **エジプト出身**

日本人について：日本人は優しすぎます！もともと日本が好きだったけど、日本に来てもっと好きになりました！
Global Citizen とは？一言で表すと？：平和のために努力し続ける人。「努力」。

ジョン・トマさん
John Thomma

 **アメリカ出身**



日本人について：日本人はとても綺麗で、とても丁寧で感動した。特に創大生は異文化を尊敬し、理解しようと積極的に様々見習うところがあります！
Global Citizen とは？一言で表すと？：自分の殻を打ち破ること。「Open mind(開かれた心)」。



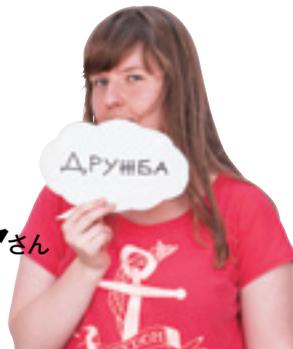
チョウ ウンシさん
趙 蘊之

 **中国出身**

日本について：日本のアートはとてもユニークで面白い。様々な感情を、芸術を通して感じることができ、とても嬉しい。
Global Citizen とは？一言で表すと？：異なる文化、たくさんの差異を乗り越えていくには愛が必要と感じます。共通の目的を目指してみんなで団結していくこと。「愛」。

オルガ・ザバズスカヤさん
Olga Zavadszkaya

 **ロシア出身**



日本人について：とても優しく良心的。
Global Citizen とは？一言で表すと？：みんなが仲良く、家族のようにお互いを助け合うことを促進できる人。「Д р у ж б а (友情)」。

シンディー・ナバスさん
Cindy Navas

 **アメリカ出身**



日本人について：日本のみんなはとても優しく、とても素敵。日本が大好きになりました！
Global Citizen とは？一言で表すと？：文化の異なる相手から学び、自身の文化を相手に伝え、共通点を見出し、共通理解を促進していく存在。日本で様々なバックグラウンドを持った学生と出会えてとても嬉しいです。「Imagination(想像力)」。

ジョディラクシミ・パラスブラマニさん
Jothilakshmi Balasubramani

 **インド出身**

日本について：インドにいたとき、大学で創立者池田博士の書籍を数多く学んできたので、日本に来られたことが本当に嬉しいです！
Global Citizen とは？一言で表すと？：分け隔てなく人と接することのできる人。他者への貢献の心があることです。「Equality(平等の精神)」。

エドワード・マルティネスさん
Eduardo Martinez

 **オーストラリア出身**



日本人について：大好き!みんながあまりに親切で、礼儀正しすぎるので、カルチャーショックを受けました(笑)。
Global Citizen とは？一言で表すと？：好奇心を持っている人。多くの国を訪れたり、世界についてもっと知ろうという心のある人。「Curiosity(好奇心)」。



Welcome to SPACe!!

中央教育棟2Fにあるラーニング・commonsSPACeでは、留学生が自分の国を紹介するGlobal Village Event が開催されています!簡単なあいさつの仕方や食文化の紹介、また伝統的なダンス等、楽しくにぎやかに各

国の文化に触れることができます。終了後は、留学生が準備してくれた現地のお菓子を食べながら異文化交流! 2015年度前期はトルコ語、ポルトガル語、中国語、スペイン語、フランス語のイベントが開催予定です。



ルーカス・ソウザさん

Lucas Souza



ブラジル出身

日本人について :お互いを尊敬し合う文化が本当に素晴らしい!
Global Citizen とは?一言で表すと? :対話を通し、世界の平和に貢献していきける人。「Criar a nova era (新時代を開く)」。



ブルット・アクソイさん

Bulut Aksoy



トルコ出身

日本人について :大人っぽいというか、すごく成熟していると思います。みんな若いのに将来のことや夢などを真剣に考えていて驚きました。
Global Citizen とは?一言で表すと? :国籍や差異を気にしない、人間主義の人。「Experience (体験・経験)」。



ヴィクトリア・ヴェディーヒナさん

Victoria Vedekhina



ロシア出身

日本人について :不思議。普通じゃない(笑)。みんながあまりに親切で興奮しています(笑)。
Global Citizen とは?一言で表すと? :互いを思い合ったり、支え合ったりする心のある人。「Reciprocity (相互に支え合う心)」。



エマニュエル・アメヤウさん

Emmanuel Ameyaw



ガーナ出身

日本について :協調性を大切にする日本の文化にととても感銘を受けました。初めての海外でしたが、みんなに様々な助けをもらいながら毎日が新しいことの発見です。
Global Citizen とは?一言で表すと? :国際的な視野を持ち、常に世界のことを考える人。「Readiness (喜んでする心)」。



アレクサンダー・アタナソヴさん

Aleksander Atanasov



ブルガリア出身

日本人について :文化の違いを経験できるのが非常に面白い。また、日本人はみんなとても優しく、困ったときはいつも助けてくれます(日本人の中では、関西人がとても温かく、気軽に話しかけやすいので、大好きです)。
Global Citizen とは?一言で表すと? :異文化に対し寛容で、他者との差異を苦しめない人。「寛容」。

スマートフォンで動画を観てね!

留学生メッセージ

AReaderの使い方

STEP1

ARアプリ「AReader」をインストールします。



iPhoneはこちら



Androidはこちら

Playストア、App Storeから「AReader」アプリをダウンロード。ダウンロードは無料です。

STEP2

ARアプリ「AReader」を起動します。

[注意事項] ●動画はカメラ付きスマートフォンやタブレットのみでご覧いただけます。ご利用のスマートフォンやタブレット機種、設定環境によってはご利用いただけない場合がございますのでご了承ください。●アプリ「AReader」のご利用は無料ですが、アプリのダウンロード、動画閲覧には通信料がかかります。定額制プランを契約されていない場合、高額になる恐れがありますのでご注意ください。●LTE回線またはWi-Fi回線をご利用をおすすめします。3G回線では極端に読み込みが遅くなる場合があります。●この動画を無断でインターネットなどで配信する事は違法です。*App StoreはApple Inc.のサービスマークです。*Android、GooglePlayはGoogle Inc.の商標または登録商標です。

STEP3

AReaderのマークを読み取り、映像を鑑賞します。



フィリピンでビジネスに、ラグビーに、
熱い情熱を持って活躍する関口さんが考える
Global Citizenとは？

**PHILIPPINE TRANSWORLD
SHIPPING CORPORATION勤務**

経済学部2004年卒業

関口 正行さん

Masayuki Sekiguchi

「思いきって飛び込む勇気と、どんな場所でも
必要とされる存在になるための努力が大切」



地方政府の代表と台風復興プロジェクトを視察

**現在の仕事との出会いにつ
いて教えてください**

大学4年生の時、進路がまだ決まっていない私に、ゼミの先生がフィリピンでの仕事を紹介してくださいました。タガログ語はもとより、英語も全く話せない私になぜ？と戸

惑いもありましたが、まずは飛び込んでみようかと渡比を決意しました。

働き始める前の4ヶ月間、創業者池田先生の大切な友人でもあるアブエバ博士が創立されたカラヤアン大学で英語を学びながら、フィリピンでの食事や生活、タガログ語、公共の乗り物の乗り方を覚えることができたのは、その後、知り合いの全くいない土地で仕事をする上で、とても役に立ちました。

現在は、日系の国際物流会社に勤務しており、仕事内容は、ODA プロジェクトのフィリピン国内の輸送の責任者として、フィリピン国内の主要空港へ次世代レーダーシステムを設置するという政府間のプロジェクトに関わっています。

さらに、この国際物流会社が出資をしている約5千人が登録する人材派遣会社のゼネラルマネジャーも務めております。仕事につけない人たちや女性の雇用創出のお役に立てていることをとても誇りに思っています。

学生時代の思い出について教えてください

学生時代は、ラグビーの試合などで香港、グアム、ニュージーランドへ行きました。ラグビーを通して海外に興味を持ち、将来は世界に羽ばたく人材になり

たいと思うようになりました。ラグビーは現在も続けており、日本人初のフィリピン代表選手として、国際マッチに出場することもできました。

正直、学生時代にあまり勉強はできていませんが、それ以上に、日々の逃げたくなるような苦勞があったからこそ、今直面する問題も必ず乗り越えられると自信を持って言えます。

関口さんが考えるGlobal Citizenとは？

グローバル社会、Global Citizenと言われていいますが、海外に出ても、日本人同士で集まって、日本企業と取り引きしているのでは、グローバルではないと思います。海外の言葉を学ぶことはもちろん、海外の文化を理解し、海外の人と共に働き、生活していくことが大事です。

語学は若いうちに飛び込んでしまえば、すぐに覚えます。私は英語もほとんどできず、タガログ語は一切できませんでしたが、フィリピンに来て2年目にはタガログ語で会話ができるようになっていました。ラグビー代表はみんな海外（アメリカ、イギリス、オーストラリア等）から来る選手なので、私も全て英語でコミュニケーションをとります。

Global Citizenとは、その国の発展のため、その国の人々のために貢献し、なくてはならない人になることだと思います。



日本人初となるラグビーフィリピン代表選手として国際試合前の国歌斉唱



「世界につながる仕事」を目指し、
着実に成果をあげている田内さんが考える
Global Citizenとは?

ソフトバンク株式会社勤務

経済学部2008年卒業

田内 恵美子さん

Emiko Tauchi

「どこにいても『自分の今いる場所』が 世界につながる舞台と信じてベストをつくす!」

現在の仕事の内容について教えてください

現在は、モバイルの国際サービスの企画業務を担当しています。最近では、米国子会社のSprint ネットワークを日本国内と同等の料金で利用できる「アメリカ放題」というサービスを提案することができました。お客様からの反響もとてもよく、社内表彰を受賞することができました。「情報革命で人々を幸せに」という経営理念のもと成長を続けてきたソフトバンクグループの舞台が世界に広がり、更なる挑戦が楽しみです。

学生時代の思い出について教えてください

学生時代は、英語で経済学を学ぶIP(インターナショナル・プログラム)と、大学3年時にはアメリカ創価大学ロサンゼルス分校(当時)へ短期留学に行きました。



「アメリカ放題」の提案で社内表彰を受賞

また、創価大学には世界各国からの多くの留学生が勉強しているので、WLCなどで常に国際交流ができ、国内にいなから英語と国際感覚を身に付けることができました。

うれしいことに、学生時代に共に学んだ多くの友人たちが今、世界を舞台に活躍しています。

学生時代にみんなで語っていた夢を、それぞれがそれぞれの形で実現していることにいつも刺激をもらっており、かけがえのない存在となっています。

田内さんが考えるGlobal Citizenとは?

社会人になってから5年半は経営企画で海外に関連のない仕事に携わっていました。

その間、壁にぶつかることも多く、自分の使命がここにあるのかと不安になり、現実から逃げたくなる時もありました。そんな時に励みとなったのが創業者より送られた

**英知を磨くは何のため 君よそれを忘るな
労苦と使命の中にもみ 人生の価値は生まれる**
との指針です。

母校への恩返しのため、「自分のいる場所で社会へ貢献していける一人になろう」と決め、頑張ることができました。

その中で縁あって、学生時代から持ち続けていた「世界につながる仕事」がした



現地小学生との交流会にて。留学中には国際交流や異文化にふれる多くの機会が

いという思いを実現できる現在の部署に異動となりました。今の部署では、前の部署での経験も生かすことができ、全て無駄ではなかったと感じています。Global Citizenとは、「英語を話せること」や「国際関連の仕事」をしている人のことを言うのではなく、どこにいても「自分の使命を探求し、自分のいる場所で貢献できる人」ではないでしょうか。私もまだまだ自分の可能性と使命を探求していますが、どこにいても創価大学で学んだ精神を胸に社会で挑戦していきます。

教員に聞く! What is a Global Citizen?

表紙にも登場している国際教養学部の教員に、1) Global Citizenとはどんな人? 2) Global Citizenになるために必要な力や素質は?との質問に答えてもらいました。



学部長・教授
マリア・グアハルド
Maria Guajardo

専門分野: Education and Youth Development, Cultural Competency, Early Childhood Education

1)『英知を磨くは何のため』という創立者池田先生が投げかけられた問いは、“What is a Global Citizen?”を考えるための扉を開いてくれています。“なぜ”ここにおいて、“どのような”人になろうとし、“どう”価値を創造できるのか。Global Citizenは、人間主義の未来を形作る重要な役割を担いながら、世界と人々に対する人間的な配慮とケアの文化を促進する人です。

2) Global Citizenは公共の利益に貢献しながら社会で活躍し、グローバルリーダーは世界を変革し、地球規模の戦略を発展させる中で活躍をします。Global Citizenとグローバルリーダーの距離は小さくもあり、大きくもあります。それはあなたが選んだ役割に対するあなた自身の決意によります。『英知を磨くは何のため』、自分だけが決められる有意義な生き方をすることです。



准教授
ロバート・シンクレイヤー
Robert Sinclair

専門分野: Philosophy

1) Global Citizenとは、世界をホームと感じられる人です。このような人は他の人の言動や行動を広い心で受け入れ、違う生活条件にも簡単に順応することができます。また、他の人生の価値観も受け入れながら、違う文化や見解を共有し、学ぼうとする強い意志を持っています。更に、現代の問題の多くが世界的規模で起きており、私たちすべてに影響を与えていることを認識しています。

2) 社会的、文化的、そして道徳的な課題を扱う中で、日常の問題が地球規模になったことに対する認識を持たなければなりません。そして、問題に取り組む創造的な方法を考えられるようになる必要があります。最も大きな挑戦は、世界基準で物事を考えることです。今直面している問題が身近な環境に限らず、国際社会に広がっており、それに対する無数の方法を認識することにも繋がっています。



准教授
ハートムット・レンツ
Hartmut Lenz

専門分野: Political Science, International Relations

1) 近年台頭してきたGlobal Citizenは、国の法的な一員としてではなく、連合的立場として、ベンチャービジネス、環境問題、核兵器や健康、移民問題などに積極的に関わっています。中央権力に保障された権利や義務の結果である市民性よりも、そのような権力者がいないことが、Global Citizenに優位を与えています。トップダウンではなく、ダウンアップのシナリオです。

2) よく言われるGlobal Citizenの特性に、“相互作用する能力”があります。それを、言語能力の観点から理解し、多くの機関で学生たちの言語習得に力を入れるわけですが、私はそれ以上に大事なことがあると思っています。自分を認識し、他人を認識し、自分を取り巻く世界を認識する力。相互の関わりとそれに伴う責任を認識する力。そして、異なる文化に共感する力です。



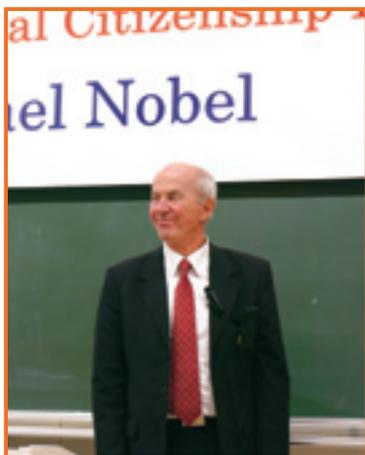
講師
アナ・コリ
Anar Koli

専門分野: Global Environmental Politics, International Relations, International Political Economy, South Asian Studies

1) Global Citizenとは、個人限定のアイデンティティ(例:国民性)をより広く、例えば、国際社会のアイデンティティへと超越できる人です。私にとってGlobal Citizenとは、自分のアイデンティティに気付き、他人のアイデンティティにも気付ける人であり、心から受け入れることができ、様々な物の見方を尊敬し、幅広い前向きな世界観に基づき意識的に行動ができる人です。

2) あらゆる固定観念から開放される必要があります。様々な文化を理解し、多様な見解や信念、文化が現実を構成していることに深い理解を持つ必要があります。周囲の世界についての正しい知識とより深い理解は、私たちがより広く受け入れることを、Global Citizenになることを可能にします。あらゆる多様な世界観を受け入れながら共通の世界を作っていくこと。それらを一つに変換するのではなく!

マイケル・ノーベル氏に聞く!



ノーベル賞創始者のアルフレッド・ノーベル氏を曾祖叔父にもち、ノーベル親族会前会長で議長のマイケル・ノーベル博士が5月22日に来学。『平和学』の授業での講演ならびにGCP(グローバル・シチズンシップ・プログラム)生との懇談会が開催されました。そこで博士が語ったこととは――。

ノーベル親族会前会長
マイケル・ノーベル氏
Dr. Michael Nobel



Global Citizenshipは、自分のことだけを考えたり、自分の国のことだけを考えていてはありえない

GCP生からの“What is a Global Citizen?”との質問に答えて

「Global Citizenと言っても、私のようにしょっちゅう世界を飛び回って、たわいもないスピーチをする必要はありません(笑)。あなたは良き市民、Global Citizenであるべきであり、Global Citizenとは、尊敬と良い態度を他者や他の国々に対して持てる人であり、相手の信条を大切にできる人です。友人や家族など、身近な人々に、あなたがいかに他者へ共感できるかや、彼らの信念に対し敬意を払っているかを理解させることです。皆さんには、多くの人々が犯す過ちをしてほしくありません。それは、私腹を肥やすためにお金をもっと稼ぎたいと望み、自分や自分の子供たちのためだけにより良い生活を求めるような、そんな考えを持たないでほしいのです。皆さんは、映画『シンドラのリスト』を知っていますか?何百、何千ものユダヤの人々を救ったオスカー・シンドラは、“もっと彼ら

のためにできたなら”、そう言いました。なぜなら、それが大変にやりがいのあることで、何よりも充足感のあることだからです。皆さんにも、人生の最後に、私は他の人々のために何かをしようとしたんだと言えるようになってもらいたい。それこそが送るべきいい人生と言えるのではないのでしょうか?それが、私が考えるGlobal Citizenです」

「平和学」の講演の最後に博士が語った
“To be a Global Citizen!”

「皆さん方にはGlobal Citizenに成長してもらいたい。そのために生涯、一生懸命に勉強してほしい。それは、日本人の視点、あるいは日本人から見た視点を超えて、世界の人々とつながり、世界の人々の苦悩を共有し、それを理解しようと努力していただきたいということです。それが私が考えるGlobal Citizenです。皆さんが卒業されたら、世界の人々の生活をより良くするために、地道に尽くし、地道に努力をしていただきたいのです。異なる文化、異なる民衆、異なる宗教、そういう違いに対して敬意を払い、尊重していただきたい。それから情熱を持って平和促進や紛争解決のために努力してもらいたい。是非、それを人生の大きな目標の一つにしてください。私のように老いた時に振り返って、自分も少しは人類の役に立ったなという人生を、自分のためだけでなく、他の人の人生にも寄与できたなという人生を歩んでください」



スマートフォンで
動画を見てね!



ノーベル氏
講演

ARリーダーの使い方はP9 参照

トインビー博士と創立者の対談に学ぶ Global Citizen

対談集『二十一世紀への対話』発刊40周年記念展示 「池田大作とA.J.トインビー展」

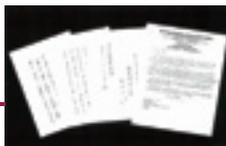
創立者と20世紀を代表する歴史家アーノルド・J・トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』の
発刊(1975年3月20日)40周年を記念した展覧会が、本学文系校舎A棟にて開催されています。



対談するトインビー博士と創立者、ロンドンのトインビー博士の自宅で

一通のエアメール

トインビー博士が創立者に送った書翰(右)と、
創立者の返信



1969年(昭和44年)9月、創立者のもとに通のエアメールが届きました。それは、「20世紀最大の歴史家」とも評されるアーノルド・J・トインビー博士からの、「対談」を要請する書翰でした。

「創価学会並びにあなたのごことについて、多くの人々から聞きました。以来、あなたの思想や著作に強い関心を持つようになり、英訳の著作や講演集を拝見しました。

これは提案ですが、私個人としてあなたをロンドンに御招待し、我々二人で現在、人類の直面する基本的な諸問題について、対談をしたいと希望します。

時期的にはいつでも結構ですが、あえて選ばれるとするならば、5月が最もよいと思います。

(1969年9月23日付)

エアメールが届いて2年半後の1972年5月、イギリスが最も輝く季節の5月の花咲く頃に、創立者はロンドン市内にあるアーノルド・J・トインビー博士の自宅を訪れ、ついに対談が実現しました。

この一通のエアメールから始まった対談は、いまなお世界中の人々に希望の光を放ち続けています――。

開催期間:5月2日(土)~8月6日(木)

会場:創価大学文系A棟1階展示場

開場時間:10:00~17:00 入場無料

アーノルド・J・トインビー Arnold Joseph. Toynbee

1889年4月14日、イギリス・ロンドン生まれ。
オックスフォード大学卒業。古代史専攻。歴史学者、文明批評家。

西欧中心ではない独自の歴史観により文明の興亡を体系化し、「20世紀最大の歴史家」とも称せられている。
第一次世界大戦中は、外務省情報部に勤務。
1919年に30歳の若さでロンドン大学教授となる。
後に、王立国際問題研究所の主任研究員となり、1956年まで、およそ33年間奉職し、国際関係の年次報告として『国際問題大観』Survey of International Affairsを著した。

著書は『歴史の研究』A Study of History(全12巻)、『国際問題大観』(全17巻)のほか、数十冊の著作がある。主要な著作は、『国際問題大観』を除きほとんど邦訳されている。

1975年10月22日、イギリス・ノースヨークシャー州のヨークで没した。



懸賞論文
募集!

本展を記念して、懸賞論文を募集します。応募要領の詳細は特設サイトをご覧ください。

【特設サイト】池田先生とA.J.トインビー博士対談集40周年記念事業
<http://www.soka.ac.jp/campuslife/ikeda-toynbee-40/>

課題テーマ

高校・大学・短大生：対談集の中から1つの章を読了し、「テーマ」を設定してください。

大学院生：テーマは自由

募集期間：2015年8月3日(月)~9月4日(金)必着

表彰：二十一世紀への対話賞 副賞：Apple Watch、図書カード1万円等

国際援助活動の経験から考えるGlobal Citizenとは？

世界がかかえる問題について考え続け、解決しようとする人でありたい

I want to be a person who keeps thinking about the world's problems and tries to solve them

苦しんでいる人たちがいる最前線で
数多くの国際援助活動に携わる



ザンビアの現地スタッフとプロジェクトについて協議を行う。現場の意見を尊重し、少しでも効果の高い取り組みを検討する

看護学部の佐々木准教授は研究者・教育者であるとともに、医療分野での国際援助活動のスペシャリストとして活躍しています。

国際医療NGO「AMDA」のスタッフとして、またJICA(国際協力機構)が派遣する専門家として、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルワンダ、アフガニス

タン、ザンビアなどで難民への医療援助や子供たちの心のケアをはじめ、数多くの国際プロジェクトに携わってきました。

国際援助活動を通じて実感した日本人の強み

「援助をする際に最も大事なものは、相手国の文化や価値観、状況を理解して尊重し、そのうえで我々のノウハウを提供していくことです。こちらのやり方を一方的に押し付けても、相手国に最終的には受け入れてもらえません。例えば医療活動において、イスラム教圏では、女性には必ず女性医師や女性看護師を配ることが必要です。その配慮があって初めて、女性が医療サービスを受けることを男性が認めるのです。これは非常に重要なことです」

相手の価値観や目線に合わせて、必要な援助を見極める……。実際には、そう簡単なことではなさそう

です。

「私の経験では、日本人はむしろ欧米人よりも得意ですよ。日本人は、現地の行政スタッフも行かない最貧困地域にもいわず入って人々と交流し、信頼関係を築いてしまう。これは自然に相手と対等に対峙する日本人の特性であり、大いなる強みです。一方、欧米人は国家戦略を策定し、システムを構築することを得意とします。ですから行政や政策の運用には強いですが、それを現地の人が受け入れるためには、現地の人との信頼は欠かせません」

Global Citizenはゴールではなく、
終わらなき挑戦の連続の中にある

現在、佐々木准教授は看護学部でさまざまなプロジェクトを推進しています。フィリピンの医療現場やアメリカの名門看護大学での研修を企画・実施し、またGCPコーディネーターとして、国際的に通用する論理的思考力や高度な政策分析力、問題解決能力を備えた学生の育成にも尽力しています。

「学生には、チャンスがあればぜひ研修や留学に挑戦してほしい。それは、単に語学のためではありません。異なる価値観や文化と触れ合う中で、相手を尊重しつつ心を通わせる。その経験から得られることはたくさんあり、グローバル・マインドはそこから育まれていくのです」

先生はGlobal Citizenとは、どのようなものとお考えでしょうか。

「Global Citizenとは、グローバル・マインドを持ち多様性を尊重しつつ、かつ市民としての責務という視点がかかるものだと思います。よりよい社会を作るためにはどうしたらよいのかと試行錯誤し、少しでも問題を解決していこうとする人です。また、創立者が示唆しているように、それは終わりのない挑戦の連続の中にこそあるものです。そういう生き方こそが、Global Citizenといえるでしょう」



米国国際看護研修の実施を記念し、サンフランシスコ市より「荣誉認定証」を受賞



フィリピン・キャピトル大学で国際看護研修を実施。学生は多様性を尊重するケアの重要性を学んだ



Profile

佐々木 諭
Satoshi Sasaki

1986年創価大学入学。同大学大学院博士課程修了後、マンチェスター大学大学院で開発経済を専攻。AMDAに所属してボスニア、ルワンダなどで支援に携わった後、JICAの専門家派遣でザンビアへ。2007年新潟大学大学院で医学博士号取得、同大学医歯学総合研究所公衆衛生学分野助教。2010年より創価大学准教授。専門は国際保健学。

第45回創価大学・第31回創価女子短期大学入学式を挙行

Jointly Celebrating the 45th Soka University & 31st Soka Women's College Entrance Ceremony

4月2日、第45回創価大学・第31回創価女子短期大学入学式が、池田記念講堂で挙行され、創立者池田大作先生が新生に祝福のメッセージを贈りました。

ケニア・ナイロビ大学のピーター・ワサンバ人文科学部長一行、中国・上海市甘泉外国語中学の劉国華校長一行ら多数の来賓が列席し、中央アジア・ウズベキスタン共和国のクジーエフ元文化スポーツ大臣が祝辞を述べました。

馬場善久学長は「創立者の万感の期待を胸に、徹して語学力を身に付け、世界の平和に寄与できる人材に成長しよう」と呼びかけました。



中国の留学生受け入れから40周年 「第36回周桜観桜会」が開催

Commemorating the 40th Anniversary of Arrival of First Exchange Students from China. The 36th Zhou Sakura Viewing Festival Held.

第36回周桜観桜会が、4月5日、ディスカバリーホールで開催されました。本年は、日中国交正常化後、中国から日本への初の正式な留学生を受け入れてから40周年。1975年に周桜を植樹した第1期の国費留学生6人のうち、程永華駐日中国大使、許金平中日友好協会副会長、劉子敬中日友好協会理事、李佩創価大学講師の4名が出席。程大使が「創立者が築いた『金の橋』を、若い皆さんの手で更に強固なものとし、受け継いでいただきたい」と、スピーチしました。

また、中国大使館関係者や南開大学・遼寧師範大学・大連工業大学・大連芸術学院の周恩来・池田大作研究会の学生の代表、ケニア・ナイロビ大学から来学中の代表団が参加しました。



タイ王国シリントーン王女が来学

Soka University Welcomes H.R.H Princess Maha Chakri Sirindhorn of Thailand

訪日中のタイ王国プーミポン・アドウンヤデート国王の次女であるマハー・チャクリー・シリントーン王女一行が4月24日に来学し、本学の馬場善久学長、田代康則理事長ら教職員、学生、留学生の代表が歓迎しました。シリントーン王女の国内外におよぶ教育、社会福祉への貢献を讃え、創価大学名誉教育学博士号が授与され、シリントーン王女が謝辞を述べました。式典後、シリントーン王女は、中央教育棟内の総合学習支援センター「ラーニングcommonsSPACE」などを視察しました。これまで創立者がプーミポン国王を3度表敬訪問。チュラポン王女、ガラヤニ王女も本学に来学しており、同国のチュラロンコン大学、タマサート大学との活発な学術交流が行われています。



エルサルバドル共和国大使による 講演会が開催

El Salvador's Ambassador to Japan Gives
Lecture

5月8日、創価女子短期大学にて中米・エルサルバドル共和国のマルタ・セラヤンディア大使を招き、開学30周年記念講演会を開催しました。「平和な社会へ女性の役割と使命」と題し、短大生に対し、平和、そして語学の大切さについてスピーチしました。



ガンダーラ考古学の権威、 ナシム・ハーン博士の講演会を開催

Lecture by Dr. Nasim Khan, Gandhara Archaeology
Expert

国際仏教学高等研究所の主催で、ガンダーラ考古学で世界的に著名なパキスタン・ペシャワール大学教授のナシム・ハーン博士を迎え、5月14日に講演会が行われました。ハーン博士は「アジズ・デリ（ガンダーラ）仏教遺跡の発掘と地域歴史研究への影響」とのテーマで、発掘現場・発掘物の紹介と共に、発掘が与える影響、伝える真実についてスピーチをしました。ハーン博士は、1999年バジワール地方の僧院跡で発見されたガンダーラ語で書かれた大乘仏教写本の研究を、国際仏教学高等研究所の辛嶋静志教授らと共同で進めています。



本学がJMOOCに加盟 2015年6月より講座を開講

Soka Becomes a Member of JMOOC-Course and
Begins Its Course in June 2015

JMOOCの公認プラットフォーム「OpenLearning.Japan」にて、無料講座「グローバルに生きる学生・生徒のための大学論」（担当：国際教養学部 小山内優教授）を開講しました。8月4日まで開講予定で、受講登録期限は8月4日15時までとなっていますので、ぜひ登録ください。「大学の使命や役割は何か」「大学で何を身につけるべきか」「『グローバル人材』とはどのような人材か」などの講義が予定されています。

※詳細はWEBにて「創価大学 JMOOC」で検索

ヘルマン・ファン・ロンパイ EU初代大統領が来学

First EU President Herman Van
Rompu Visits Soka University

スマートフォンで
動画を見てね!

EU初代大統領が
来学

ARリーダーの使い方はP9参照



5月29日、欧州連合（EU）前大統領のヘルマン・ファン・ロンパイ氏が来学し、馬場善久学長ら教職員との懇談、学生との交流会を行いました。教職員との懇談では、創価大学への訪問をとても楽しみにして、日本に向かう飛行機の中でも、創始者池田先生の書籍を読んできたこと、さらに創価大学の理念と自身の信念は同じであることなどを語りました。学生との交流会では、学生の質問に答えながら、和解は“対話”と“相手を尊重すること”で可能となり、あらゆる問題解決のカギは“団結すること”にあると強調しました。また、どこまでも“対話”を策とし、世界や国という大きなスケールにおいても、個人においても、“尊敬”と“愛情”を持ち、“寛容”で、“喜んで事を成そうとする精神”“相互尊重の態度”が不可欠であると語りました。

理工学部 戸田龍樹教授の研究課題が JST-JICAの「SATREPS」に採択

Research by Faculty of Science and
Engineering Prof. Tatsuki Toda Selected for
JST-JICA SATREPS Program

理工学部共生創造工学科の戸田龍樹教授（工学研究科長）の研究課題「熱帯水産資源の持続可能な循環管理型生産システムの研究開発」が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の国際科学技術共同研究推進事業地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の研究領域「生物資源の持続可能な生産・利用に資する研究」に条件付きで採択されました。2019年度までの5年間にわたってJSTより支援を受け、マレーシア・プトラ大学バイオサイエンス研究所と共同で研究を進めます。

学生の活躍 Student Activity



硬式野球部

「侍ジャパン大学代表」田中正義投手が圧巻の投球

Seigi Tanaka Pitches for Samurai Japan at Universiade 2015 and Beats NPB Select Team



昨年の全国大会にて力投する田中正義投手

第28回ユニバーシアード競技大会(韓国・光州)に出場する侍ジャパン大学日本代表とプロ野球球団から選抜されたNPB選抜との壮行試合が6月29日に行われ、硬式野球部の田中正義投手(経営学部3年)が圧巻の投球を見せました。田中投手はこの日最速の153キロのストレートを軸に、変化球の制球も良く、7者連続を含む8奪三振と4回をパーフェクトに抑えました。ユニバーシアード競技大会は7月6日からスタートし、予選では、グループ

Aで韓国、中国、フランスと対戦。田中投手は、日本代表初の金メダル獲得へ向け試合に臨みます。田中投手は「金メダルを獲って、創立者をはじめ、応援して下さる方々に喜んでいただけたらと思っています。国際大会というチャンスをもらえたことに感謝し、技術面でも、精神面でも多くを学びとって帰ってきたいと思っています。調子は非常にいいので、自分の持ち味を存分に発揮しながら、金メダルに貢献していきます!」と語りました。

経営学部

「リードアジア2015」で最優秀賞を受賞

Prize Awarded at Lead Asia 2015



最後列の右から2人目が豊崎万里子さん

3月23日から25日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、日中学生交流連盟主催、独立行政法人国際交流基金日中交流センター後援の「リードアジア2015」が開催されました。経営学部3年の豊崎万里子さんが、多くの応募者の中から書類・面接の選考を経て、日本人学生12名と中国人学生12名の代表に選出され、最終日に行われたプレゼンテーション大会で「最優秀賞」を受賞しました。「リードアジア」プログラムは、日本および中国の学生が、社会問題や経済問題等のテーマについての議論を通して、互いの

文化や考え方の相違などを理解することを目的に、2013年から毎年開催されています。プログラム名称の「リードアジア」には、アジアを学び、精通することを表す「Read」と、将来アジアを導くことを表す「Lead」の意味が込められています。豊崎さんは「3日間にわたり、中国の学生と交流する中で、先入観にとらわれず、あらゆる情報の真偽を自分の目で見て、頭で考え、足を運ぶことが大事であると学びました。今後も視野を広くもち、ビジネスコンテスト等に挑戦していきたいと思います」と決意を語りました。

創価女子短期大学

MOS世界学生大会2015日本代表に選出

SWC Student Representing Japan at MOS World Championship 2015



創価女子短期大学現代ビジネス学科2年の下地陽子さんが、MOS世界学生大会2015日本代表(ワード部門)に選出されました。本大会は13回目を迎え、日本全国より延べ4万7千人の学生が日本代表の座を目指してエントリーしました。一次選考と二次選考の結果、下地さんを含む4名が日本代表に選ばれ、8月9日から12日(現地時間)に行われるアメリカ・ダラス

(テキサス州)での決勝戦で、世界各国から選出された代表者たちと大会専用のワード、もしくはパワーポイントの試験を受けて世界チャンピオンを目指します。下地さんは「応援して下さる全ての方々に感謝するとともに、短大開学30周年のこのときに日本代表になれた意味をかみしめて、自分らしく力を出し切りたいと思います」と抱負を述べました。

工学研究科

大学院生の論文がアメリカの科学誌に掲載

Paper by Engineering Grad Student Accepted in US Science Journal



右端が福岡由美さん

工学研究科生命情報工学専攻・博士後期課程の福岡由美さんの論文が、アメリカの科学誌“PLOS ONE”に掲載されました。論文

のテーマは「532 nm low-power laser irradiation facilitates the migration of GABAergic neural stem/progenitor cells in mouse neocortex」。大脳皮質の神経幹細胞に緑の低出力レーザーをあて、分化が促進された実験結果をまとめています。福岡さんは「何十年か前までは、大人の脳の神経は一度死んでしまうと、新たに再生されることはないというのが定説でしたが、近年は、大人の脳の中にも神経幹細胞があり、神経はできるのでは、と言われるようになりま

した。そのメカニズムはいまだ解明されていませんが、私は、そもそも神経幹細胞が脳の中にあるので、そこから神経の再構築をすることが可能になればと思い、研究を進めています。今後も、脳のメカニズムを解明し、脳神経幹細胞を活性化させる方法を研究していきます。脳神経幹細胞を活性化させることができれば、脳の神経が減ってしまうような病気に貢献できる可能性があると感じ、挑戦を続けてまいります」と語りました。

工学研究科

国際会議にて大学院生の論文が「Best Paper Award」を受賞

Soka Grad Student Wins Best Paper Award at International Conference



青木秀伸さん

4月19日から24日にかけて、スペインのバルセロナにて開催された The International Academy, Research and Industry Association (IARIA) 主催の国際会議「The Fourteenth International Conference on Networks (ICN 2015)」において、工学研究科情報システム工学専攻・博士前期課程の青木秀伸さんおよび博士後期課程の長野純一さん(指導教員:篠宮紀彦教授)の共著論文が「Best Paper Award」を受賞しました。この国際会議には世界38カ国から、有名大学や一流企業の研究者が集まり、情報通信ネットワークの最新技術に関する153件の研究

が発表されました。

受賞した論文は「Network Partitioning Problem to Reduce Shared Information in OpenFlow Networks with Multiple Controllers」と題し、情報通信ネットワークを効率的に運用管理するための新しい手法を提案しています。本会議で発表した青木さんは「日々の研究活動を支えてくださる方々、そして国際会議への挑戦の機会を与えてくださった創価大学に感謝しております。今後も、研究活動を通して創価大学の発展に貢献していけるよう努力し続けていきます」と喜びを話しました。

経済学部

みずほ学術振興財団主催「第56回懸賞論文」で1等を受賞

First Prize in the 56th Essay Contest of the Mizuho Foundation for the Promotion of Sciences



右側が若林勇人さん、左側が新久章さん

6月9日、東京都の銀行倶楽部において、公益法人みずほ学術振興財団が主催する「第56回懸賞論文」の表彰式が行われ、「学生の部」において、経済学部4年の若林勇人さんと新久章さんが、それぞれシドニー大学、香港大学留学中に応募した論文が1等を受賞しました。

選択した論題は、「量的・質的金融緩和の『出口戦略』を考える」。審査員からは「主要

な出口戦略の功罪を高度な定量分析を用いて示している点、また、具体的な政策提言に結びつけている点や全般的に論文としてまとまりがある点を評価して1等とした」と講評があり、若林さんは「将来は貧困問題の克服に貢献できる力を付けたい」と話し、新久さんは「力を付けて金融分野を支えていく人間に成長したい」と語りました。

2015年度前期特待生

2015 Performance-Based Scholarships

この度、学生部委員会・学部教授会にて審議決定された2015年度前期特待生が発表されました。特待生とは、セメスター（前期／後期）ごとに学業成績が優秀である学生を表彰する制度で、対象者には奨励金15万円が給付されます。

法学部4年 掛川 美和さん Miwa Kakegawa



「創大で知性と人格を磨こうと、徹して勉学に挑戦してきました。将来は、ゼミで学んだ公益性の視点を発揮し、社会に貢献してまいります！」

経済学部経済学科 横山 晃史 Koji Yokoyama	経済学部経済学科 進藤 伸子 Nobuko Shindo	経済学部経済学科 岡澤 沙貴子 Sakiko Okazawa	経済学部経済学科 岡村 良江 Yoshie Okamura
経済学部経済学科 宮田 明美 Akemi Miyata	経済学部経済学科 延武 大吾 Daigo Nobutake	経済学部経済学科 垣尾 大吾 Daigo Kakio	経済学部経済学科 市川 諒 Ryo Ichikawa
経済学部経済学科 利倉 心之助 Shinnosuke Toshikura	経済学部経済学科 青木 広平 Kohei Aoki	経済学部経済学科 杉本 誠 Makoto Sugimoto	経済学部経済学科 迫本 大樹 Daiki Sakomoto
経済学部経済学科 川元 良明 Yoshiaki Kawamoto	経済学部経済学科 岩佐 弘美 Hiromi Iwasa	経営学部経営学科 不破 清美 Kiyomi Fuwa	経営学部経営学科 知念 珠良 Tamara Chinen
経営学部経営学科 玉置 直人 Naoto Tamaoki	経営学部経営学科 當山 清一 Seichi Toyama	経営学部経営学科 菅原 美緒 Mio Sugawara	経営学部経営学科 林 裕幸 Hiroyuki Hayashi
経営学部経営学科 稲場 英知 Eichi Inaba	経営学部経営学科 成田 幸恵 Yukie Narita	経営学部経営学科 広川 祐美 Yumi Hirokawa	経営学部経営学科 森 浩祐 Kosuke Mori
経営学部経営学科 谷口 真敏 Masatoshi Taniguchi	経営学部経営学科 矢澤 悠希 Yuki Yazawa	経営学部経営学科 土屋 進一 Shin'ichi Tsuchiya	経営学部経営学科 黒田 秀之 Hideyuki Kuroda
法学部法律学科 菅野 幹 Motoki Sugano	法学部法律学科 戸羽 直也 Naoya Toba	法学部法律学科 瀨田 恭平 Kyohei Seta	法学部法律学科 掛川 美和 Miwa Kakegawa
法学部法律学科 岡本 弘幸 Hiroyuki Okamoto	法学部法律学科 檜山 直美 Naomi Hiyama	法学部法律学科 岩間 美空 Miku Iwama	法学部法律学科 三井寺 夏希 Natsuki Miidera
法学部法律学科 堺谷 ひかり Hikari Sakaitani	法学部法律学科 田村 幸恵 Yukie Tamura	法学部法律学科 山根 清 Kiyoshi Yamane	法学部法律学科 川村 将輝 Masaki Kawamura
法学部法律学科 福本 明美 Akemi Fukumoto	法学部法律学科 安達 和秀 Kazuhide Adachi	法学部法律学科 中野 裕太 Yuta Nakano	法学部法律学科 西村 直人 Naoto Nishimura
文学部人間学科 岩崎 正和 Masakazu Iwasaki	文学部人間学科 宮田 華那 Kana Miyata	文学部人間学科 後藤 あゆみ Ayumi Goto	文学部人間学科 坂田 巴菜 Hana Sakata
文学部人間学科 山崎 智美 Tomomi Yamasaki	文学部人間学科 入江 浩太郎 Kotaro Irie	文学部人間学科 岩田 いつみ Izumi Iwata	文学部人間学科 井上 美希 Miki Inoue
文学部人間学科 近野 美咲 Misaki Konno	文学部人間学科 山中 秀幸 Hideyuki Yamanaka	文学部人間学科 長谷川 瞳 Hitomi Hasegawa	文学部人間学科 堀切 雄太郎 Yutaro Horikiri
文学部人間学科 落合 舞子 Maiko Ochiai	文学部人間学科 長谷 由美子 Yumiko Hase	文学部人間学科 渡部 明日香 Asuka Watanabe	文学部人間学科 黒相 いちご Ichigo Kuroso
文学部人間学科 林 磨弥 Maya Hayashi	文学部人間学科 大塚 江利子 Eriko Otsuka	文学部人間学科 篠崎 ひかる Hikaru Shinozaki	文学部人間学科 陵城 彩 Aya Okashiro
文学部人間学科 真殿 琴子 Kotoko Madono	教育学部教育学科 高澤 幸代 Sachiyo Takazawa	教育学部教育学科 平岡 秀美 Hidemi Hiraoka	教育学部教育学科 越智 理佐子 Risako Ochi
教育学部教育学科 松本 美幸 Miyuki Matsumoto	教育学部教育学科 北川 知夏 Chika Kitagawa	教育学部教育学科 亀田 悠希 Yuki Kameda	教育学部児童教育学科 里 潤奈 Junna Sato
教育学部児童教育学科 飯島 光一 Koichi Iijima	教育学部児童教育学科 稲村 美咲 Misaki Inamura	教育学部児童教育学科 岡澤 茜 Akane Okazawa	教育学部児童教育学科 関谷 諒介 Ryosuke Sekiya
教育学部児童教育学科 清水 裕美 Hiromi Shimizu	理工学部情報システム工学科 三好 正英 Masahide Miyoshi	理工学部情報システム工学科 横道 大助 Daisuke Yokomichi	理工学部情報システム工学科 春日 輝 Hikaru Kasuga
理工学部情報システム工学科 高澤 栄一 Eiichi Takazawa	理工学部情報システム工学科 山田 大樹 Daiki Yamada	理工学部情報システム工学科 戸田 光一 Koichi Toda	理工学部生命情報工学科 中島 陽子 Yoko Nakajima
理工学部生命情報工学科 淡嶋 美香 Mika Awashima	理工学部生命情報工学科 鈴木 伸子 Nobuko Suzuki	理工学部生命情報工学科 赤瀬 幸子 Sachiko Akase	理工学部環境共生工学科 栗栖 萌 Moe Kurisu
理工学部環境共生工学科 黒澤 佳子 Keiko Kurosawa	理工学部環境共生工学科 森山 侑紀 Yuki Moriyama	理工学部環境共生工学科 後藤 緑 Midori Goto	理工学部環境共生工学科 林 広大 Kodai Hayashi
看護学部看護学科 中村 美鈴 Misuzu Nakamura	看護学部看護学科 松岡 裕佳 Yuka Matsuoka	看護学部看護学科 永野 優希 Yuki Nagano	看護学部看護学科 村上 明日理 Akari Murakami

8/28(金)～8/30(日)に開催決定! 充実の53講座が皆さんの参加を待っています!

42回目を迎える夏季大学講座が、今年も8月28日(金)から8月30日(日)の3日間で53講座を開講します。昨年は、9,792人が受講。本講座は、創立者池田先生のご提案で、「市民に開かれた大学」を目指し、開学3年目の1973年より始まりました。充実した教育設備が整った中央教育棟GLOBAL SQUAREで、創大生活を満喫してください!



●内容

開講日 2015年8月28日(金)・29日(土)・30日(日)
会場 創価大学 東京都八王子市丹木町1-236
聴講資格 自由
聴講料 1講座 2,500円(税込)

※1日に聴講できるのは1講座です。
※申し込み後の変更ならびに返金はできません。
※「創友会・会友会カード」(クレジットカード併用)をお持ちの方は、当日、割引額(500円)を返金いたします。

●時間帯

午前の講義 10:00～11:30
昼食・休憩 11:30～13:30(校内散策など)
午後の講義 13:30～15:00
※お申込の1講座を、午前・午後合わせて3時間聴講することになります。

●ピストンバスの案内

【ピストンバス往路】
JR八王子駅北口14番乗場より大学構内直行便を、
午前7時半～午前9時半まで運行します。
【ピストンバス復路】
大学構内2カ所よりJR八王子駅直行便を、
午後3時～午後4時まで運行します。
※午後4時以降は、通常の路線バスをご利用ください。

※講座内容等詳細はWEBにて「創価大学 夏季大学講座」で検索

●お申込方法

申込期間: 2015年6月20日(土)午前10時～8月27日(木)午後11時まで。
コンビニエンスストア「ローソン」・「ミニストップ」各店のチケット発券機Loppi(ロッピー)にて購入できます。

お近くのローソン・ミニストップの探し方

ローソン: <http://store.lawson.co.jp/>
ミニストップ: <http://shop.ministop.co.jp/ms/>

パターン1: 直接購入(予約なし)の場合

- 1 「Loppi」の画面で「各種番号をお持ちの方」をタッチし、直接「Lコード」を入力
- 2 「検索結果画面」→「チケット購入画面」→「枚数入力画面」に移ると「Loppi」本体から「申込券」が発券され、発券後30分以内にレジで精算し完了

パターン2: 電話で予約後の引き取りの場合

0570-084-003へ電話をし、音声に従って進んでください。その際「予約番号」を必ず控えてください。電話予約後、引取期間内にローソン・ミニストップへ行き、「Loppi」で引取手続きをしてください。

- 1 「Loppi」の画面で「各種番号をお持ちの方」をタッチ
- 2 「番号検索」画面に10桁の予約番号を入力し、「検索結果一覧」画面で「予約済みチケットの発券」を押す
- 3 「予約済みチケットの引き取り」画面の「番号入力欄」にご予約時に登録した「電話番号」を入力
- 4 「カード情報入力」画面で「いいえ」を押し、次の画面でお客様の「名前」、「電話番号」を入力
- 5 「Loppi」本体から「申込券」が発券され、発券後30分以内にレジで精算し完了

教育問題から先端科学まで、魅力ある講座からピックアップ!



「困り感」をもつ子ども たちを支援する

教育学部 教授
高野久美子

忘れ物が多い、友だちとうまく遊べない、いつもそわそわしているなど、日常生活で様々な「困り感」をもつ子供がいます。そうした子供の「困っている」ことをどう理解し支えていけるかを心理学の立場から考えます。



海の懐中電灯 —海洋光学入門—

教育学部 准教授
桑原ビクター伸一

懐中電灯で暗闇を照らすように、海洋学では人工衛星から顕微鏡にいたるまで光を利用することで海の謎を解明しています。今回の講義では楽しく光学に触れ、海洋学における最新の光を利用した例を学びます。

“SOKA Photo コンテスト”入賞者発表!

**たくさんのご応募
ありがとうございました!**

応募総数316点!
多くの力作の中から、
次の方々が入賞しました。

最優秀賞

選評:光の動きが写真を通して伝わってきます。撮影者の努力を感じます。新しい創価大学の姿が表現されている、素晴らしい作品です。(カメラマン 水戸昭)

受賞者:まるで夢のようです。自分が創大生として楽しく写真を撮れるのは、いつも励ましてくださる先輩や友人のおかげです。ありがとうございます! 自分の写真を見てくださる人に喜んでもらえるように、更に努力してまいります!



『輝く英知の城』妹尾 英一 (文学部1年)

優秀賞



『未来のまなびや』大黒 由紀 (八王子市在住)



『5月 初めての創大』南 美香 (大分市在住)

佳作



『春の窓』増井 蓮 (文学部3年)



『夕景』大峽 典人 (経済学部3年)



『入学』谷口 邦明 (卒業生)

communico賞



『星降る本部棟』江口 大助 (卒業生)



『学びの秋』さちよん



『雲の祝福』谷口 邦明 (卒業生)



『私の原点』藤田 由美子 (通教生)



『未来へ』野々下 伸作 (職員)

創大・短大の美しい風景や
キャンパスライフ等、皆さんの
応募をお待ちしています!

**コムニコ
への投稿は**

communicoホームページ <http://soka-communico.tumblr.com/submit/> に携帯、パソコン、QRコードから簡単にアクセスできます。もちろん、メールでの投稿も可能。携帯、パソコンから ou3zophz7wvie@tumblr.com へ画像、動画、テキストを添付して投稿してください!



コムニコホームページQRコード

2014年度 学校法人創価大学の 事業および決算報告書

Fiscal 2014 Soka University Operation and Balance Sheet



2014年度は、創立50周年を目指す「創価大学グランドデザイン」の第2ステージの2年目でありました。前年度の看護学部につき、本年度は国際教養学部を開設、更に、2015年4月開設を目指して、工学部の生命情報工学科と環境共生工学科を1学科に再編し、工学部を理工学部へと発展させるための準備を進めました。決算につきましては、消費収入は183億円、同支出は184億円となり、ほぼ消費収支の均衡を維持しております。今後も経費削減と収入の確保に取り組み、更に財務改善を目指してまいります。詳しくはホームページに今回の事業報告および決算各種資料を掲載しておりますので、ご参照ください。

<http://www.soka.ac.jp/about/finance/>

2014年度 資金収支計算書

資金収支計算書			
単位 (千円)			
資金収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	8,663,710	8,677,994	△ 14,284
手数料収入	253,873	249,788	4,085
寄付金収入	2,274,920	2,489,785	△ 214,865
補助金収入	2,030,503	2,383,820	△ 353,317
国庫補助金収入	2,029,803	2,383,166	△ 353,363
地方公共団体補助金収入	700	654	46
資産運用収入	3,649,324	4,377,836	△ 728,512
資産売却収入	21,143,683	27,390,116	△ 6,246,433
事業収入	785,082	784,796	286
雑収入	152,643	253,461	△ 100,818
前受金収入	2,551,000	2,498,010	52,990
その他の収入	2,049,609	2,961,630	△ 912,021
資金収入調整勘定	△ 2,741,981	△ 2,792,739	50,758
前年度繰越支払資金	6,339,194	6,339,194	0
収入の部合計	47,151,560	55,613,691	△ 8,462,131

資金収支計算書			
単位 (千円)			
資金支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	7,167,841	7,165,799	2,042
教育研究経費支出	5,201,924	5,069,325	132,599
管理経費支出	1,645,018	1,725,049	△ 80,031
借入金等利息支出	4,789	4,732	57
借入金等返済支出	68,860	68,860	0
施設関係支出	1,856,066	1,623,829	232,237
設備関係支出	300,724	266,035	34,689
資産運用支出	25,667,039	29,644,356	△ 3,977,317
その他の支出	1,812,733	1,939,751	△ 127,018
予備費	37,274	0	37,274
資金支出調整勘定	△ 1,840,809	△ 800,425	△ 1,040,384
次年度繰越支払資金	5,230,101	8,906,380	△ 3,676,279
支出の部合計	47,151,560	55,613,691	△ 8,462,131

2014年度 消費収支計算書

消費収支計算書			
単位 (千円)			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	8,663,710	8,677,994	△ 14,284
手数料	253,873	249,788	4,085
寄付金	2,314,920	2,503,795	△ 188,875
補助金	2,030,503	2,383,820	△ 353,317
国庫補助金	2,029,803	2,383,166	△ 353,363
地方公共団体補助金	700	654	46
資産運用収入	3,649,324	4,377,836	△ 728,512
資産売却差額	309,134	1,339,864	△ 1,030,730
事業収入	785,082	784,796	286
雑収入	152,643	254,172	△ 101,529
帰属収入合計	18,159,189	20,572,065	△ 2,412,876
基本金組入額合計	△ 497,920	△ 2,297,462	1,799,542
消費収入の部合計	17,661,269	18,274,603	△ 613,334

消費収支計算書			
単位 (千円)			
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	7,017,849	7,014,621	3,228
教育研究経費	8,431,924	8,317,399	114,525
管理経費	2,075,018	2,221,103	△ 146,085
借入金等利息	4,789	4,732	57
資産処分差額	382,974	792,642	△ 409,668
徴収不能引当金繰入額	15,000	0	15,000
徴収不能額	95,000	63,157	31,843
予備費	44,581	0	44,581
消費支出の部合計	18,067,135	18,413,654	△ 346,519
当年度消費支出超過額	405,866	139,051	266,815
前年度繰越消費支出超過額	5,437,004	5,437,003	1
翌年度繰越消費支出超過額	5,842,870	5,576,055	266,815
帰属収支差額	92,054	2,158,411	△ 2,066,357

2014年度 貸借対照表

貸借対照表			
単位 (千円)			
資産の部			
科目	2014年度末	2013年度末	増減
固定資産	227,289,814	227,324,769	△ 34,956
有形固定資産	100,440,703	102,531,808	△ 2,091,106
土地	18,173,629	18,263,336	△ 89,707
建物	67,878,183	70,097,466	△ 2,219,284
その他の有形固定資産	14,388,891	14,171,006	217,885
その他の固定資産	126,849,111	124,792,961	2,056,150
流動資産	10,029,024	8,935,568	1,093,457
現金・預金	8,906,380	6,339,194	2,567,186
その他の流動資産	1,122,645	2,596,374	△ 1,473,729
資産の部合計	237,318,838	236,260,337	1,058,501

貸借対照表			
単位 (千円)			
負債の部			
科目	2014年度末	2013年度末	増減
固定負債	3,678,885	3,884,379	△ 205,493
長期借入金	151,940	204,140	△ 52,200
その他の固定負債	3,526,945	3,680,239	△ 153,293
流動負債	3,223,701	4,118,118	△ 894,417
短期借入金	52,200	68,860	△ 16,660
その他の流動負債	3,171,501	4,049,258	△ 877,757
負債の部合計	6,902,587	8,002,496	△ 1,099,910
基本金の部			
科目	2014年度末	2013年度末	増減
第1号基本金	158,203,541	156,380,318	1,823,223
第2号基本金	10,124,879	9,655,640	469,239
第3号基本金	66,633,886	66,628,886	5,000
第4号基本金	1,030,000	1,030,000	0
基本金の部合計	235,992,306	233,694,844	2,297,462
消費収支差額の部			
科目	2014年度末	2013年度末	増減
翌年度繰越支出超過額	5,576,055	5,437,003	139,051
消費収支差額の部合計	△ 5,576,055	△ 5,437,003	△ 139,051
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計			
科目	2014年度末	2013年度末	増減
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	237,318,838	236,260,337	1,058,501

OPEN CAMPUS 2015

スーパーグローバル
大学企画も!!

学部・学科等の学びを体験できる体験授業や学生に直接質問ができる相談コーナー、広大なキャンパスをまわるバスツアー、池田記念講堂で開催される歓迎フェスティバル、ほかに入試問題「傾向と対策」講座(英語・国語・数学)、入試ガイダンスなど多岐にわたるプログラムを用意しています。皆様のご参加をお待ちしています!

参加者登録で記念品プレゼント

オープンキャンパスに参加し、参加者登録をすると創価大学オリジナルの素敵な記念品をプレゼント!

2015

2016

8月1日(土)
2日(日)
23日(日)

3月20日(日)

開催時間
10:00~16:00

創大で、あなたの未来の姿を発見してください!!



フェスティバル
歓迎



交流コーナー
(経済学部懇談の様子)



交流コーナー
(理工学部実験の様子)

キャンパス アカデミック ビジット Campus Academic Visit

創価大学の実際の授業を高校生・受験生の皆さんに体験していただくことができる「Campus Academic Visit」を開催します。この機会にぜひ、創価大学の日常を体験してみてください!

第1回 9月22日(火・祝)

第2回 9月23日(水・祝)

※予約はWEBから「創価大学 Campus Academic Visit」で検索

2016年度 入学試験日程決まる!

創価大学			
	出願期間	試験日	合格発表日
公募推薦入試	2015年11月1日(日)~11月9日(月) (郵送 締切日消印有効)	2015年11月21日(土)	2015年12月2日(水)
大学入試 センター試験利用入試 (前期3科目方式)	2015年12月17日(木)~2016年1月15日(金) (郵送 締切日消印有効)	2016年1月16日(土)・17日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること (本学独自の試験は課さない)	2016年2月12日(金)
大学入試 センター試験利用入試 (前期4科目方式)			
全学統一入試 (3科目方式)	2015年12月17日(木)~2016年1月20日(水) (郵送 締切日消印有効)	2016年2月3日(水)	2016年2月12日(金)
NEW! 全学統一入試 (2科目方式)			
一般入試	2015年12月17日(木)~2016年1月20日(水) (郵送 締切日消印有効)	経済・法・教育学部 2016年2月7日(日)	2016年2月18日(木)
		経営・文・国際教養学部 2016年2月8日(月)	
		理工・看護学部 2016年2月9日(火)	
大学入試 センター試験利用入試 (後期3科目方式)	2016年2月24日(水)~3月4日(金) (郵送 締切日消印有効)	2016年1月16日(土)・17日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること (本学独自の試験は課さない)	2016年3月14日(月)

創価女子短期大学			
	出願期間	試験日	合格発表日
公募推薦入試	2015年10月28日(水)~11月6日(金) (郵送 締切日消印有効)	2015年11月14日(土)	2015年11月20日(金)
一般入試	2016年1月4日(月)~1月22日(金) (郵送 締切日消印有効)	2016年2月4日(木)	2016年2月13日(土)

配布中 キャンパスガイド2016

創価大学、創価女子短期大学のキャンパスガイド2016をご請求いただけます。



資料請求は、創価大学ホームページから
<https://www.umcnavi.jp/soka/soka.asp>

「表紙の人」紹介

今回は、国際教養学部から12名の教員に登場してもらいました。



左上から時計回りに、マリア・グアハルド学部長、アイトウン・オズターク教授、ジョハンナ・ズルエタ講師、ハートムット・レンツ准教授、アナ・コリ講師、山田竜作教授、ローレンス・マクドナルド教授、高橋一郎教授、マルコム・ダカティー講師、ハルノリ・ミヤギ准教授、ヴァレリー・ハンスフォード講師、ロバート・シンクレイヤー准教授

編集部 からの お知らせ

編集部では、読者の皆様の声を募集しています。これからも、充実した魅力ある誌面づくりに努めてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

FAX: 042-691-9300 E-mail: sun@soka.ac.jp

